平成24年2月14日(火)発行　宮城県石巻港湾事務所

石巻港復興だより　第4号

（石巻港湾ひばりの通信 27号）

―港湾は人の心も結んでいます―

事務所に戻り業務を再開しました

東日本大震災の被災により，仮事務所（宮城県東部下水道事務所大会議室）での業務を行ってきましたが，平成２３年９月下旬から元の場所（石巻市中島町１７番２号）に事務所を戻して業務を再開しています。

事務所（被災直後）　→　事務所（修繕後）

災害査定終了

昨年７月から実施していた災害査定（災害復旧に際し、国の費用負担を決めるもの）が昨年 12 月に完了しました。石巻港、雄勝港、女川港、金華山港、荻浜港、表浜港の 97 件について約 397 億円の災害復旧費用が認められました。今後は復旧に向けて工事を発注、施工していきます。

応急復旧工事を行いました

災害査定後に行う本復旧工事に先駆け、早期の復旧が必要と認められた施設について応急復旧工事を行い供用しています。

・石巻港南浜埠頭大型桟橋

桟橋への接続部が損壊し、通行が出来なくなっていましたが、仮橋により利用可能となりました。

・石巻港大曲地区、他各地方港

地盤沈下の為に満潮時には冠水し利用できない状態でしたが、大型土のうと砕石により一部の物揚場および臨港道路を約 80cm 嵩上げし、満潮時でも利用可能となりました。

石巻港大曲地区

表浜港

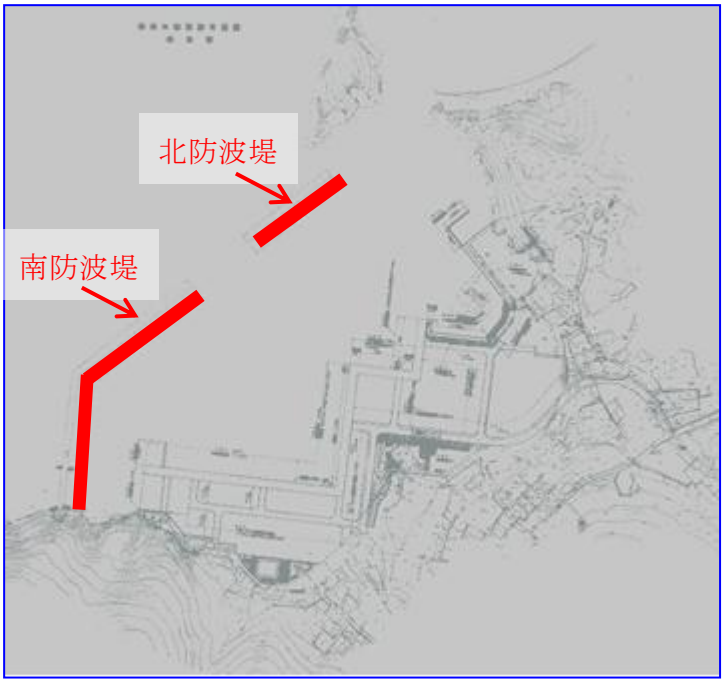
本復旧工事がはじまりました

・釜北線・雲雀野中央線・雲雀野西線・雲雀野西1号線

ひび割れ箇所の補修や側溝、ガードレールなどの再設置を行います。また、崩れた道路や護岸を復旧し、被災前と同じ道幅を確保します。

・表浜港防波堤

被災により沈下している為、元の高さに嵩上げを行います。



港湾計画の変更（軽微）を行いました

変更された概要は以下のとおりです。

① 型船に対応した岸壁に改良します。

・中央水路・釜航路を－10m→－11mへ

・日和（10,000ｔ及び15,000ｔ）岸壁を

現行：水深10m×185m、水深9m×165mから

変更後：水深11m×300m、水深9m×50mへ

※水深9m×50mは物資補給岸壁

②雲雀野地区の廃棄物処理計画を追加します。

・ふ頭用地A=10.3haをふ頭用地（海面処分・活用用地）A=10.3haへ

③新たな公共ふ頭計画を追加します。

・東日本大震災で甚大な被害を受けた企業保有の係留施設を集約し、新たな公共埠頭を整備します。

詳細は下記ホームページにて掲載しておりますので御参照ください。

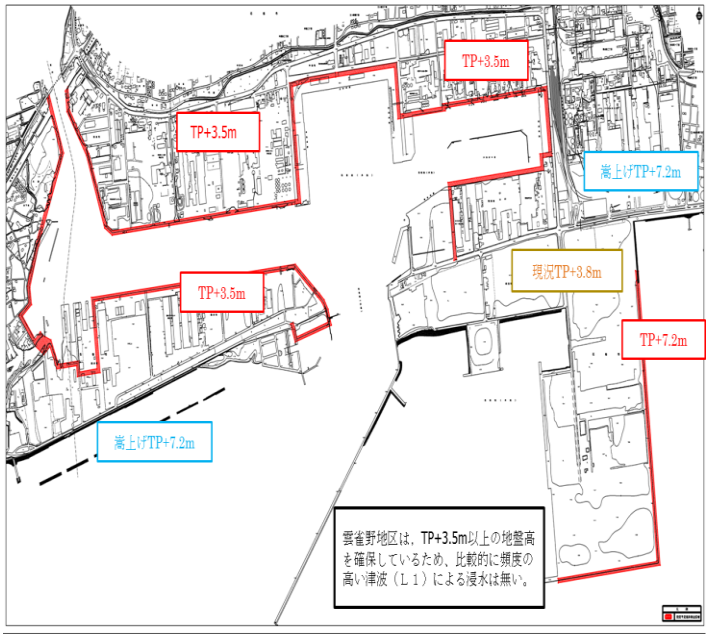
（http://www.pref.miyagi.jp/kouwan/portplan-ishinomaki/portplan-ishinomaki-7.html）

海岸堤防の設置を計画しています

東日本大震災を被災により地盤が沈下したため、津波による被害エリアの拡大が懸念されます。

そこで、海岸堤防を整備することにより、津波被害の減災を行います。

イメージ図



詳細につきましてはこれから関係各社との調整等が必要となりますので、関係各社におかれましては御理解･御協力をよろしくお願いいたします。

放射線について安全性を確認しました

石巻港では、大気中の放射線量は週２回（火曜日・金曜日）・海水中の放射線濃度は概ね２週間に１回程度で計測し、港の安全性を確認しています。

大気中の放射線量（各月の計測最大値）

月	（単位：マイクロシーベルト/時）
５月	0.080
６月	0.076
７月	0.076
８月	0.073
９月	0.073
１０月	0.069
１１月	0.082
１２月	0.080
１月	0.067

海水中の放射線濃度

月	放射性ヨウ素	放射性セシウム
５月	不検出	不検出
６月	不検出	不検出
７月	不検出	不検出
８月	不検出	不検出
９月	不検出	不検出
１０月	不検出	不検出
１１月	不検出	不検出
１２月	不検出	不検出
１月	不検出	不検出

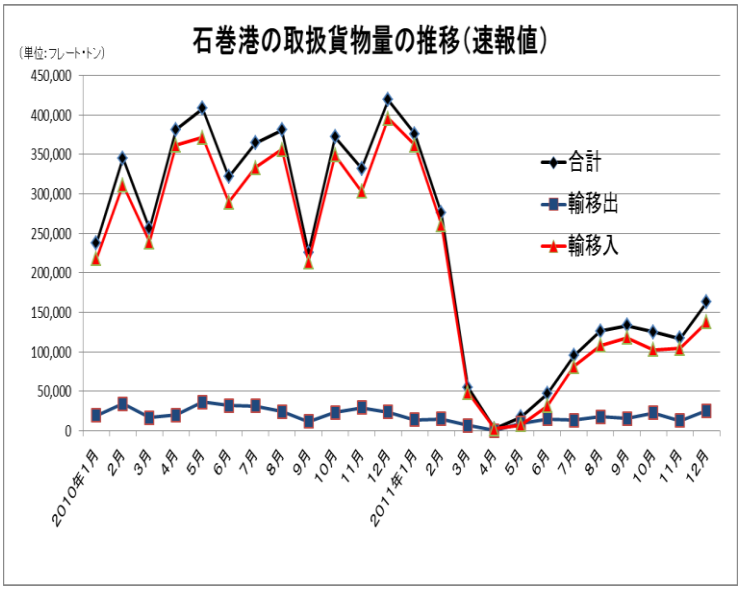
大気中の放射線量として観測された最大値は0.082（ﾏｲｸﾛｼｰﾍﾞﾙﾄ/時）です。この値は，１年間継続的に受け続けた場合でも，国際放射線防護委員会（ＩＣＲＰ）が勧告した自然放射線や医療による放射線を除いた一般人の通常時被爆基準値の１ｍＳｖ/年を下回っています。

また、海水調査においても放射性物質は計測以降全て不検出となっており、海上においても放射線の影響は受けていないと考えられます。

なお、詳細計測結果については、ホームページで随時公表しておりますので、御参照ください。（http://www.pref.miyagi.jp/kouwan/kousei/housyano.html#kaisui）

貨物の取扱量が徐々に増えてきています

石巻港の取扱貨物量（速報値）は右図「石巻港の取扱貨物量の推移（速報値）」のとおりで、取扱貨物全体でみると緩やかにではありますが、回復傾向にあるといえます。



特に工場の再稼動が早かった飼料関係貨物の取扱いが回復傾向にあり、全体取扱貨物量（２０１１年１１月末日時点まで）のうち半数以上が飼料関係の取扱いという結果になっています。

来年度の客船入港が決定しました

今年度は東日本大震災の影響により、全ての客船寄港がキャンセルとなりましたが、来年度には下記の日程での客船寄港（２隻）が予定されています。

各関係機関におかれましては、ご協力をよろしくお願いいたします。

≪寄港予定≫

「にっぽん丸」
平成 24 年 9 月 24 日（月）

（写真は平成２２年入港時の様子）

「ぱしふぃっくびいなす」
平成 24 年 9 月 26 日（水）

（提供：日本クルーズ客船株式会社）

なお、港湾感謝祭につきましては、平成２４年度は中止し、平成２５年度より再開予定です。

災害復旧派遣職員

県では，昨年６月から，道路・港湾等の県有施設等の災害復旧業務に対応するため各都道県からご支援をいただき職員の派遣を受けており，当事務所においては，秋田県から５名，富山県から２名の方々が港湾施設の復旧・復興の業務に従事しております。

現在，災害査定が終了し実施設計の段階に入り，多忙を極め，ご苦労をおかけしております。

また，雪の多い県から，少ない県へおいでになるなど今年は，いつもの冬とは違いますが，風邪などひかないように体調を整えていただきながら，よろしくお願いいたします。

所長あいさつ

私どもが所管する石巻港や管内地方港湾は，東日本大震災により甚大な被害を受けましたが，港湾立地企業の皆様を始め，地元建設業協会会員企業様や全国の関係企業様の応援を頂き，お陰様で大部分の応急復旧工事を完了することができました。

現在，本格的な災害復旧工事の発注をどんどん進めておりますし，津波防災対策として新たな考え方による防潮堤の整備や被災した企業岸壁の公共化事業を早急に実施して参りますので，よろしくご協力をお願いいたします。

最後になりますが，昨年１２月に所長として着任し約２ヶ月経ちました。石巻港の復旧・復興は東松島市大曲浜出身の私にとって“ふるさと”の再生であります。力を尽くして参りますので今後ともよろしくお願いいたします。

編集後記

震災以来，はじめての発行になります。どんなものを載せようか，スタッフと議論しましたが，やはり震災直前と復旧後の状況をトップ面にということになり，事務所と地方港の状況を載せてみました。

復旧・復興に向けて，今後職員一丸となりがんばります。

編集事務局

宮城県石巻港湾事務所
986-0845 石巻市中島町１７－２
電話：０２２５－９５－６２７１（代　表）
０２２５－９５－６２７２（港政班）
０２２５－９５－６２５１（工務班）
０２２５－９５－０１６７（工務班）
FAX：０２２５－９５－６２７３
E-MAIL：iskown@pref.miyagi.jp

石巻港湾事務所では，港湾の復旧状況等をホームページ上でも公開しております。是非ご覧ください。

ＨＰアドレス
http://www.pref.miyagi.jp/is-kouwan/